

酒井了恒 （きよひさ） 舊庄内藩士、漢詩人。天保十三年十一月十一日出  
初國庄内鶴ヶ城下生れ、明治九年二月五日歿（二八四―一七六）。字伯通、  
幼名虎之進、吉瀬、通稱を蕃、吉之丞。筆名源了恒。藩費致道館に學  
ぶ。戊辰戦に從軍。明治二年大泉藩權大參事、廢藩後兵部省出仕と、  
病を獲て翌年辭職。七年間使の一員として支那に赴き、歸國後幾許と  
なく病死。詩書を能くし、「南役雜詩」、「病中起草」等の詩稿を遺  
した。

文献に、石川止叔著『酒井と蕃の碑』（昭和四十二年八月二十五日山  
形・酒井と蕃顕彰会）、坂本守止著『酒井と蕃の明治』（昭和五十七  
年八月十日山形・庄内人物史研究会「庄内人物史考」）等。

